

# 駿河湾港整備基本計画

— 新しい時代にふさわしい日本の玄関 —  
『スマート・ポート 駿河湾』の実現に向けて



平成26年4月

静岡県交通基盤部港湾局

静岡県は、我が国を代表する“ものづくり産業の集積拠点”であり、国際拠点港湾である清水港、重要港湾である田子の浦港と御前崎港は、県内はもとより我が国全体の経済発展並びに雇用の創出と維持に多大な貢献を果たしてきた。

しかし近年、グローバル化の進展という大きな潮流の中で、我が国企業の海外進出や国内市場の縮小等により、港湾の国際競争力が相対的に低下しつつあることから、本県の主要港湾3港を「駿河湾港」と称し、機能分担や相互補完を図りつつ一体的利活用による競争力の強化を図るため、課題と対応の方向性を定めた「駿河湾港アクションプラン」を平成23年3月に策定した。

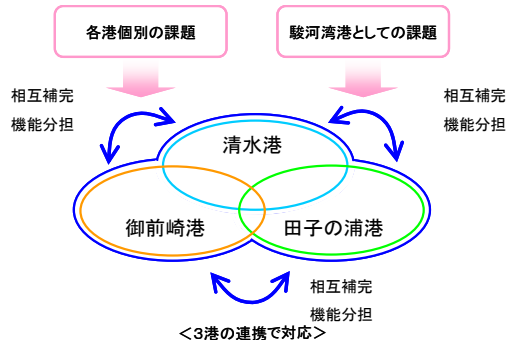
「駿河湾港整備基本計画」は、「駿河湾港アクションプラン」で定めた連携の考え方を踏まえ、「物流・産業」、「防災・危機管理」及び「交流・生活・環境」の3つの視点から、概ね30年先を見通した駿河湾港のあるべき姿とその実現に向けた必要な施策をとりまとめたものであり、駿河湾港の機能の高度化、高質化に資する、整備構想の基礎となるものである。

## ◇「駿河湾港」としての一体的な整備・運営の取組

### 物流・産業

#### 駿河湾港アクションプラン（平成23年3月策定）

- ※駿河湾港の課題と対応の方向性を定めたもの
- ※駿河湾港として一体的な整備・運営を進める
- ※駿河湾港物流促進戦略を見直す
- ※駿河湾港の整備構想と整備プロジェクトを策定する



### 物流・産業 ソフト施策

### 物流・産業 ハード施策

### 防災・危機管理

### 交流・生活・環境

#### 駿河湾港 物流促進戦略（平成25年3月策定）

※短期実践期間（H25～H29）

##### 「駿河湾港物流促進戦略」の重点プログラム

<b>I. 輸入コンテナ貨物の誘致【集積】</b> ①東アジア、東南アジア航路の航路網の拡充 ②広域物流機能の強化 ③交通アクセス向上による内陸県や首都圏貨物の誘致	<b>II. 新規バルク貨物の誘致【集積】</b> ①取扱機能の向上や港間連携を通じた輸入穀物の輸送コスト削減 ②遊休ヤードを活用した新規貨物の誘致 ③低コスト海上輸送による広域循環資源輸送ネットワークの構築
<b>III. RORO サービスの利用促進</b> ①長距離陸上輸送から海運への利用転換ニーズの発掘 ②北部九州港湾の国産 RORO との連結による新たなニーズの発掘	<b>IV. 新たな産業の誘致【創産】</b> ①輸出入貨物を創出する企業の立地促進（製造業・物流業の誘致） ②広域物流機能の強化（再発）
<b>V. 情報発信力の強化</b> ①IT活用による物流促進策の検討と港 PR の強化（港湾 Web サイトの改良、港 PR 情報発信の仕組みづくり）	

3港連携による駿河湾港のより一層の利用促進

#### 駿河湾港整備基本計画（平成26年4月策定）

※概ね30年先を見通した駿河湾港のあるべき姿とその実現に向けた必要な施策をとりまとめた、駿河湾港の整備構想の基礎



駿河湾港の現状（位置／取扱貨物量／保有機能／果たしている役割）	1
駿河湾港の課題（物流・産業／防災・危機管理／交流・生活・環境）	3
駿河湾港の将来像（果たすべき役割／基本理念と将来像／基本方針と取組施策）	6
駿河湾港の機能分担と連携のイメージ	9
主要取組施策／分担と連携のあり方（物流・産業／防災・危機管理／交流・生活・環境）	11
整備基本計画と段階的機能再編イメージ（清水港／田子の浦港／御前崎港）	17
貨物需要の将来見通し	23
今後の展開に向けて	24

## 清水港 Shimizu



## 駿河湾港

## Smart・Port SURUGAWAN

## 御前崎港 Omaezaki



## 田子の浦港 Tagonoura



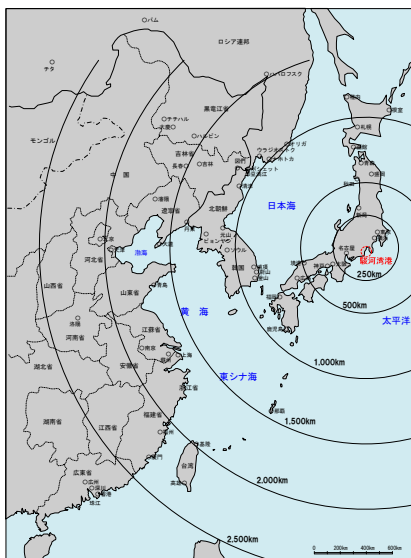
駿河湾港（清水港、田子の浦港、御前崎港）の現状

## 駿河湾港の位置

駿河湾港は国土のほぼ中央に位置し、背後地域には、我が国を代表する製造業が集積している。国内輸送の大動脈である東名高速道路や新東名高速道路が整備され、山梨県及び長野県方面には国道52号や建設中の中部横断自動車道などの優れた交通アクセスを有している。これらの道路網と駿河湾港、富士山静岡空港による陸・海・空の交通網が結びつくことで、更なる交通アクセスの向上が期待されている。

また、韓国まで約1,000km、中国東岸や台湾まで約2,000kmの位置にあり、北米や欧州を結ぶ大型定期船が行き交う基幹航路を有している。

背後地域は、港湾貨物のポテンシャルが高く、東の京浜港、西の名古屋港に挟まれており、これらの港湾との競争が激しくなっている。



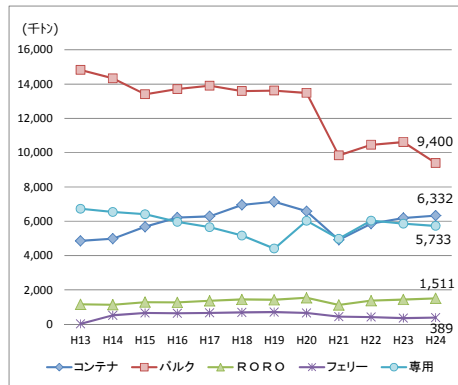
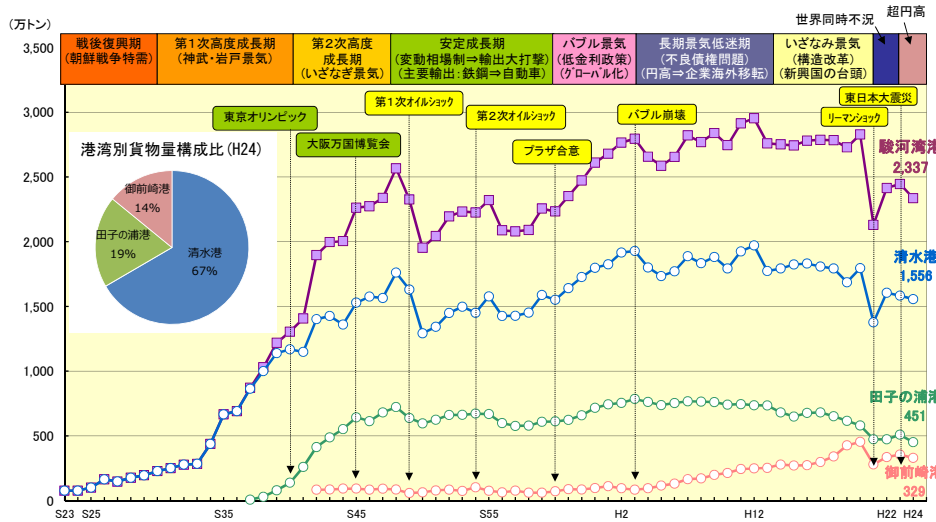
アジア地域における駿河湾港の位置



駿河湾港の位置と静岡県の交通ネットワーク

## 駿河湾港の取扱貨物量

駿河湾港の取扱貨物量は、戦後の高度経済成長に支えられ、取扱貨物量は昭和48年の2,567万トンまで順調に増加した。その後、石油ショックによる景気減速の中、我が国の主要産業は、基礎資源型から加工組立型（輸送機械、電気機械等）へ転換、またグローバル化やバブル景気の影響を受け、平成元年には、2,680万トンに達した。バブル景気崩壊後、増加傾向は鈍化したものの、平成12年には、既往最高となる2,954万トンを記録した。近年は、リーマンショックや東日本大震災などの影響もあり、平成24年の取扱貨物量は、2,337万トンとなっている。



## 駿河湾港の保有機能

		清水港	田子の浦港	御前崎港
物流・産業	外内貿 コンテナ機能	・欧米基幹航路 ・近海・東南アジア航路		・近海・東南アジア航路
	RORO機能			・九州航路
	バルク機能	・穀物 ・エネルギー(石油類、LNG) ・水産品、循環資源貨物	・穀物 ・エネルギー(石油類) ・セメント、循環資源貨物	・完成自動車 ・循環資源貨物
	生産機能	・食品品、金属、化学等	・製紙、食品、水産等	・鉄鋼、化学、水産等
防災・ 危機管理	位置づけ	・防災拠点港湾	・防災拠点港湾	・防災拠点港湾
	耐震強化 岸壁	・物流機能維持用 ・緊急物資等輸送用	・緊急物資等輸送用	・物流機能維持用 ・緊急物資等輸送用
交流・生活・ 環境	交流系	・クルーズ船埠頭(兼用) ・フェリー(土肥航路) ・観光交流施設 (イスタストリームプラザ <sup>®</sup> 、河岸の市、 清水マリナパーク等)	・田子の浦漁協 (しらす祭り) ・しらす街道	・観光交流施設 (御前崎海鮮なぶら市場、 観光物産会館なぶら館、 御前崎魚市場)
	レジャー系	・マリーナ(イスマール日の出、 折戸マリーナ等)、PB係留場		・御前崎マリーナ
	環境系	・人工海浜、緑地 ・土砂処分場	・緑地(ふじのくに田子の浦 みなと公園)	・人工海浜、緑地 ・風力発電施設

## 駿河湾港の果たしている役割

	清水港	田子の浦港	御前崎港
物流・ 産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基幹航路が就航する国内有数の国際海上コンテナ取扱機能を持つ静岡県の国際ゲートウェイ</li> <li>■ 先進のサービスを提供し静岡県経済及び我が国経済を支える物流拠点</li> <li>■ 県内の産業活動や県民生活を支えるエネルギー供給基地(LNG、石油類)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 背後地域の産業活動を支えるバルク貨物の海上輸送拠点</li> <li>■ 背後地域の産業活動や県民生活を支える県東部地域のエネルギー供給基地(石油類)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県中西部地域のものづくりを支える国際物流ターミナルを中心とした物流拠点</li> <li>■ 国内定期RORO航路が就航する内貿ユニットロード輸送拠点</li> </ul>
防災・ 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緊急物資の1次搬入基地となる県中部地域の防災拠点港湾</li> <li>■ 県中部地域及び西伊豆の防災港湾への緊急物資の中継基地</li> <li>■ 震災時の応急・復旧活動に寄与するエネルギー供給・備蓄拠点(LNG、石油類)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緊急物資の1次搬入基地となる県東部地域の防災拠点港湾</li> <li>■ 震災時の応急・復旧活動に寄与するエネルギー供給・備蓄拠点(石油類)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緊急物資の1次搬入基地となる県西部地域の防災拠点港湾</li> <li>■ 県西部地域の防災港湾への緊急物資の中継基地</li> </ul>
交流・ 生活・ 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ クルーズ船やフェリー等の旅客船が就航し多くの観光客が行き交う静岡県の海の玄関口</li> <li>■ 多彩な観光施設を有し県内外からの観光客が集い賑わう海辺の交流拠点</li> <li>■ 人工海浜やマリーナ等のレジャーポート収容施設を有する海洋レジャー活動拠点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 富士山や駿河湾等の魅力ある景観を有し地域住民への憩いと安らぎの空間を提供する親水アメニティ港湾</li> <li>■ 駿河湾海域の環境保全への貢献(浚渫土砂の改良処理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 観光物産施設を中心に観光客が集い賑わう海辺の交流拠点</li> <li>■ 人工海浜やマリーナを有する海洋スポーツ拠点</li> </ul>

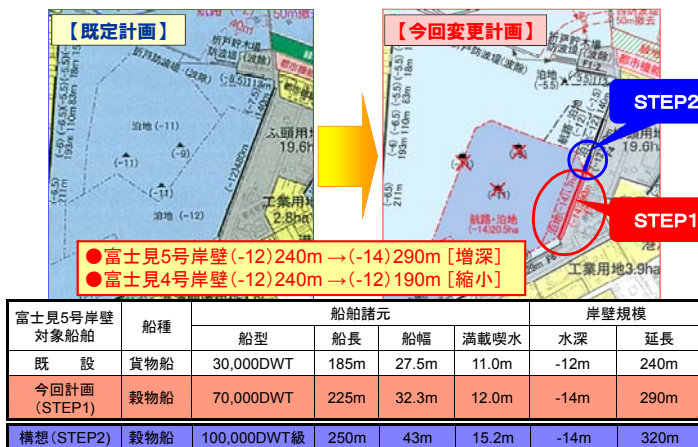
## 物流・産業機能に関わる課題

- 国際海上コンテナ輸送機能の強化・高度化
  - ・高規格コンテナターミナルの早期整備とターミナルの集約・一体化
  - ・駿河湾港のコンテナ戦略による貨物需要に対応したターミナル計画の見直し
  - ・高度な物流サービスを提供する臨海部物流拠点の形成
- バルク輸送機能の強化
  - ・輸入穀物やパルプ等の大型バルク船に対応した施設の拡充
  - ・エネルギーの安定供給に向けた輸送機能の確保
  - ・循環資源貨物の取扱拠点としての施設の拡充
- 完成自動車の輸出拠点としての機能拡充
- 内貿ユニットロード輸送機能の維持・拡充
- 既存施設の老朽化対策と物流機能再編
- 臨港道路ネットワーク機能の強化

## トータル物流コストの低減と駿河湾港の役割の強化



清水港・御前崎港のコンテナターミナル整備状況

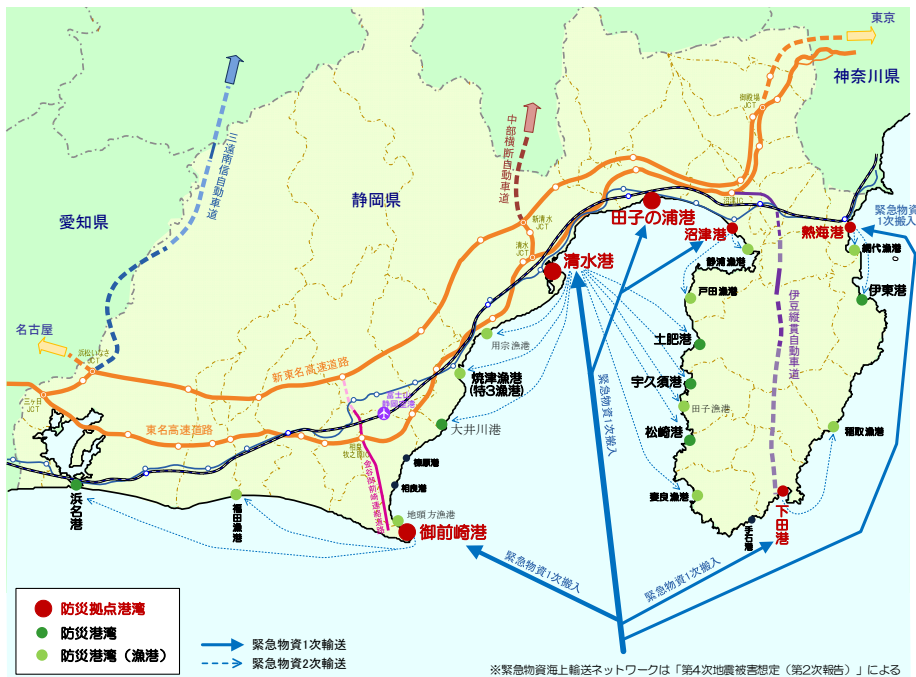


清水港富士見地区公共埠頭の計画変更の内容 (平成24年3月一部変更)

## 防災・危機管理機能に関わる課題

- 産業活動維持のための港湾施設の拡充
- 緊急物資輸送のための港湾施設の拡充
- 駿河湾港としての危機管理体制の強化
- 津波・高潮防災施設の強化・拡充
- 大規模災害における広域支援への備えの強化
- 震災後の災害廃棄物（がれき）への対応

## 安全・安心な港まちづくりと物流機能継続性の確保



静岡県の緊急物資海上輸送ネットワーク

### ■第1次報告による人的・物的被害の想定結果(駿河・南海トラフ沿いで発生する地震・津波)

最悪の場合※

**10万人を超える死者数**

**県内建物の約2割が全壊**

※下記ケース及びシーンの最大被害  
 ケース:レベル2①「基本」、「陸側」、「東側」  
 シーン:「冬・深夜」、「夏・昼」、「冬・夕方」



### ■第2次報告による生活支障等被害の想定結果(駿河・南海トラフ沿いで発生する地震・津波)

◎レベル2①「基本ケース」の被害想定

避難者数

(発災～1ヶ月後)

1日後	1週間後	1ヶ月後
約105万人	約127万人	約101万人

物資不足

(給水、食料、毛布の不足量)

給水 (4～7日目の計)	食料 (4～7日目の計)	毛布 (1週間の計)
約16.4万ト	約747万食	約62.8万枚

災害廃棄物、津波堆積物

災害廃棄物	津波堆積物	合計
約3,250万ト	約435～923万ト	約3,690～4,180万ト

緊急物資輸送需要量(発災から4日目～1週間後頃のピーク時)

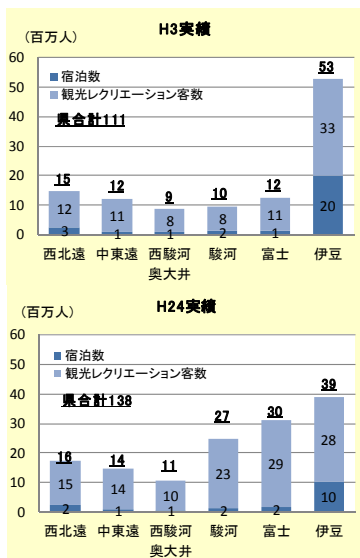
賀茂	東部	中部	西部	県計
747ト	5,998ト	25,345ト	26,477ト	58,566ト

第4次地震被害想定における被害等の想定結果

## 交流・生活・環境機能に関わる課題

- 海の玄関口としての観光振興への貢献
  - ・クルーズ船受入体制の充実
  - ・駿河湾海上ネットワークの充実（空港、道路、鉄道との接続）
- 交流拠点の形成による観光コンテンツの充実
- プレジャーボート対策の強化と地域活性化への取組
- 港湾における再生可能エネルギー利用の促進
- 憩いと安らぎの空間の確保
- 海域環境の保全と海浜の創出
- 浚渫土砂処分への対応拡充

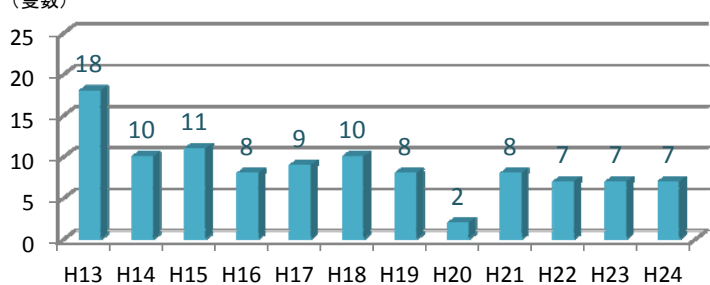
## 3港の個性を生かした魅力あるウォーターフロントの創出



資料：平成22年度 静岡県観光交流の動向

地域別観光交流客数の推移

清水港旅客船年度別入港隻数(外内航クルーズ船計)



清水港のクルーズ船等入港実績と日の出埠頭状況



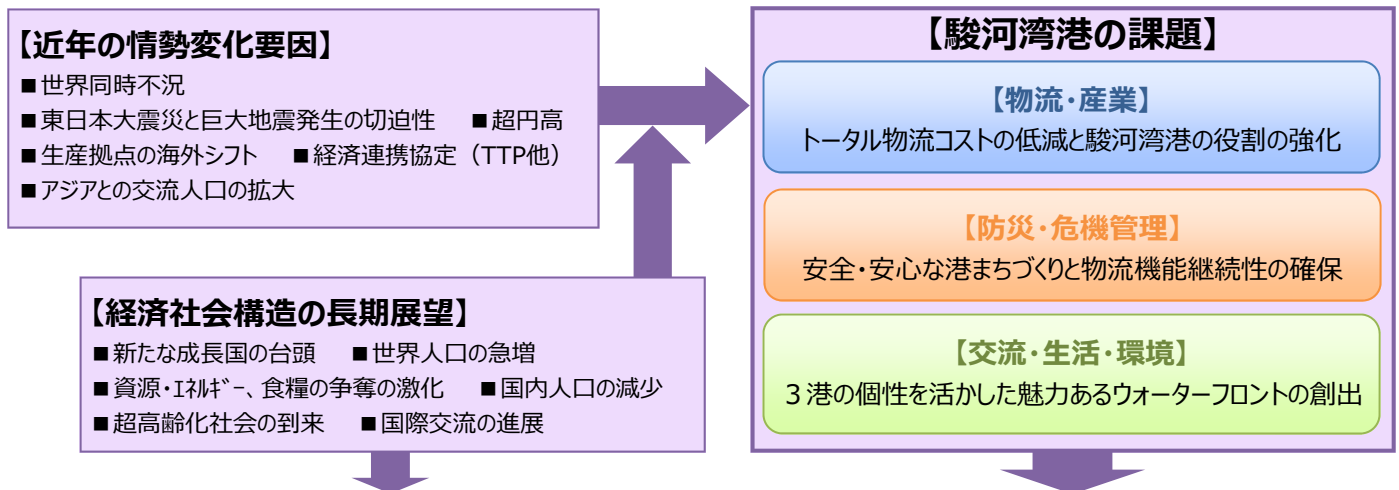
静岡県内の陸・海・空の交通インフラの現状



## 駿河湾港の果たすべき役割

駿河湾港の現状や駿河湾港を取り巻く世界並びに我が国の経済社会情勢と将来予測を踏まえ、駿河湾港が保有するポテンシャルを有効に活用し、3つの機能ごとの課題と重視すべき視点から、我が国及び地域社会に対して果たすべき役割として、3つの“S”を設定した。

物流・産業機能は“Support=支援”、防災・危機管理機能は“Safety=安全”、交流・生活・環境機能は“Spark=活気”をキーワードに施策に取り組むものとする。



**【駿河湾港の果たすべき役割 ～3つの“S”～】**

<駿河湾港が果たすべき役割を考える上での視点> ◇ 県民の雇用と安全・安心な暮らしの維持  
◇ 県の枠を超えた新しい大きなネットワークにおける交通結節点

**【物流・産業】**

**Support 支援**

- 本県の地域経済と産業（雇用）を支える
- 本県や周辺都県のエネルギー・食糧・生活物資を安定的に供給する
- 大都市圏の負荷を軽減する

**【防災・危機管理】**

**Safety 安全**

- 県民の暮らしの安全・安心を守る（減災対策の促進）
- 本県の産業活動を継続させる
- 災害時における広域支援機能を果たす

**【交流・生活・環境】**

**Spark 活気**

- 湾内定期船やクルーズなど多様な海上交通を支える
- 快適な就業・生活環境を提供する
- 駿河湾の豊かな自然環境を保全・継承する

**【駿河湾港のポテンシャル】**

- 「港」のポテンシャル
  - ・ 多彩で豊富な貿易・交流基盤
  - ・ 更なる開発可能空間
- 「場」のポテンシャル
  - ・ 国土の中心
  - ・ 第一国土軸上に位置
  - ・ 充実した高速交通網
  - ・ 新東名開通により東西軸が強化
  - ・ 南北軸も整備が進展
  - ・ 太平洋航路に直結
  - ・ 自然豊かな駿河湾
  - ・ 我が国を代表する観光資源

「東海道新時代を築く-ふじのくに交通ネットワークビジョン」(H24.2)

## 基本理念と将来像

### 【基本理念】

我が国や我が国を取り巻く世界は、「新しい時代」を迎えつつある。その中において駿河湾港は、“**知恵と工夫**”により**3つの役割を確実に果たす「Smart・Port**」として、**静岡県**の持続ある発展を支えるとともに、**国土の中央にある地理的ポテンシャル**を活かしてその機能を広域に発揮し、「**新しい時代にふさわしい日本の玄関**」を目指すものとする。

## 基本方針と取組施策

### 基本目標

### 基本方針

#### 【物流・産業】

### Support 《支援》

既存施設の有効活用と、真に効果的な投資による「みなと」の物流機能の強化

#### 【防災・危機管理】

### Safety 《安全》

『静岡県みなと機能継続計画』を踏まえ、着実な施設整備による「みなと」の危機対応力の強化

#### 【交流・生活・環境】

### Spark 《活気》

多彩な観光交流資源の活用と、賑わいのある海辺の創出による「みなと」の魅力向上

A. 埠頭利用の再編・集約

B. ターミナルの拡充

C. 港湾用地の有効活用

D. 内陸拠点との連携強化

E. 避難・防護対策の拡充

F. 緊急対応力の強化

G. 物流機能継続性の確保

H. 広域連携への対応

I. 交流機能の強化

J. レクリエーション機能の強化

K. 自然環境の保全

【将来像】

— 新しい時代にふさわしい日本の玄関 —

Smart・Port SURUGAWAN 『スマート・ポート 駿河湾』

取組施策

(1)再編・集約による物流機能の最適化 (2)遊休埠頭の利用転換の促進

(1)大水深コンテナターミナルの整備促進と多様なニーズに対応可能なコンテナターミナルの整備  
(2)外内貿ROROターミナルの強化 (3)バルク貨物船の大型化への対応促進

(1)高度ロジスティクス機能の導入  
(2)原材料、製品輸送需要に対応した物流機能の拡充と循環資源貨物取扱機能の強化

(1)背後幹線道路へのアクセス強化 (2)産業集積拠点や広域貨物集配拠点とのネットワーク強化

(1)港内滞留者等の避難対策の強化と避難施設の拡充及び船舶の避難対策  
(2)津波・高潮防護ラインの性能の再点検と整備促進 (3)防波堤のねばり強い構造への改良

(1)緊急物資等の海陸輸送における結節点の強化 (2)SOLAS対応等の保安対策の強化  
(3)エネルギー関連施設の再点検と整備促進 (4)漂流物（コンテナ、船舶等）対策の強化

(1)産業活動維持用の耐震強化岸壁等の確保  
(2)駿河湾港内でのバックアップ体制に配慮した施設規模と配置の見直し (3)航路機能の維持、保全

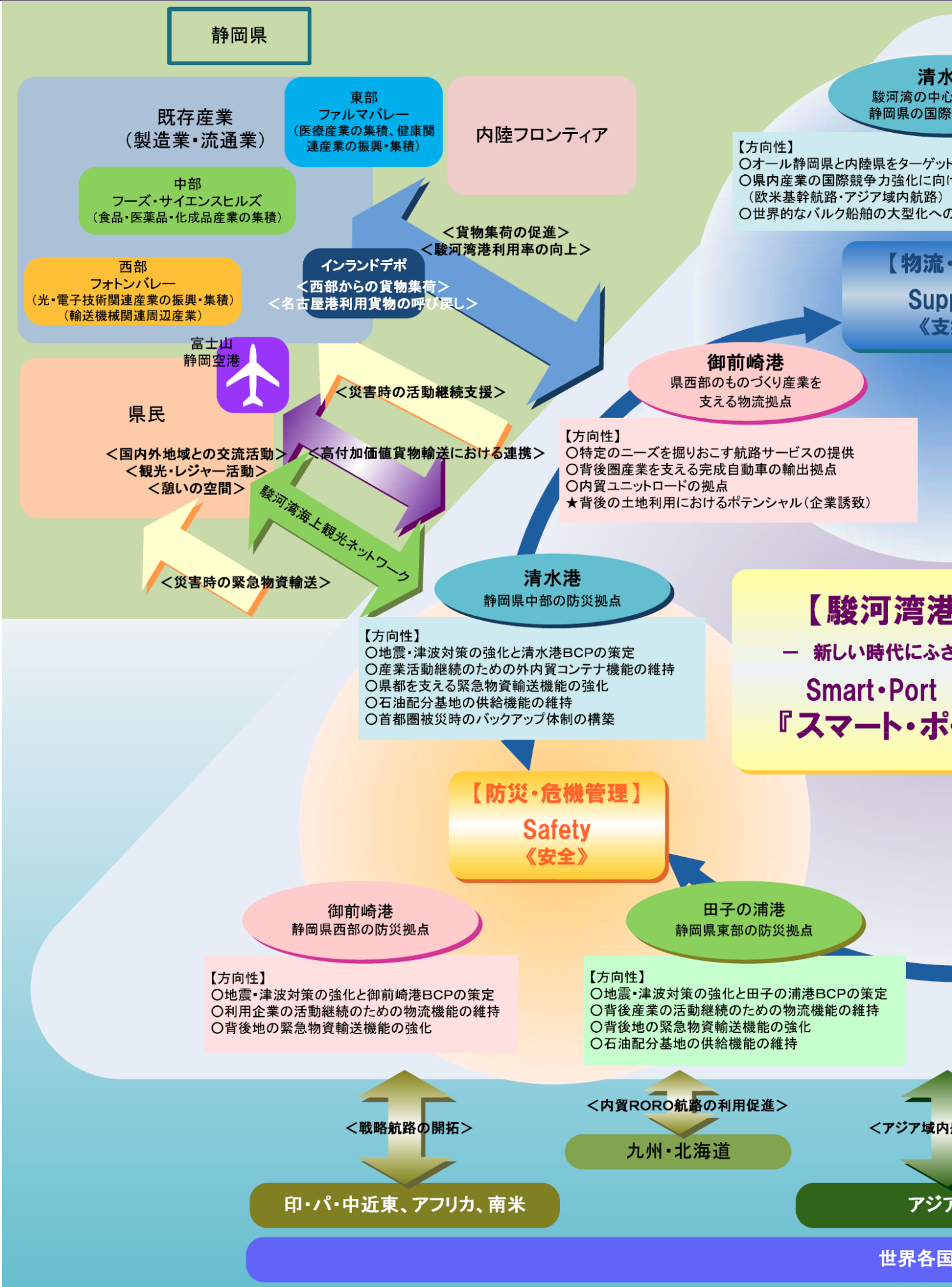
(1)周辺地域との広域支援体制や代替機能の確保 (2)県内の広域的ながれき処分体制への支援

(1)外内航クルーズ船等受入体制の強化（専用ターミナルの確保）  
(2)湾内海上ネットワークの構築と対応施設の確保  
(3)交流・観光施設の拡充（観光コンテンツの充実） (4)港湾緑地、海浜の整備促進

(1)プレジャーボート収容施設の確保と海洋レジャー産業の導入空間の確保

(1)水質・底質改善の継続 (2)海洋投棄に代わる土砂処分場の確保  
(3)港湾における再生可能エネルギー利用の促進

# 駿河湾港の機能分担と連携のイメージ





## 物流・産業機能の整備プロジェクト

### ■ コンテナターミナル整備計画

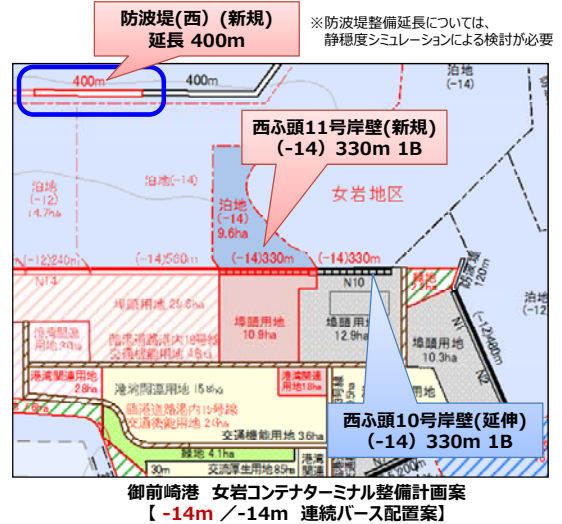
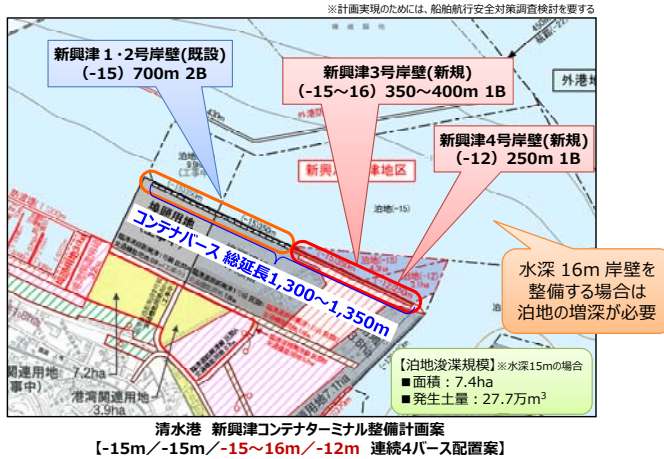
駿河湾港の長期コンテナ貨物量1,060,000TEUをもとに、航路別取扱実績や輸入貨物の戦略的な誘致方針等を踏まえ対応バース別コンテナ貨物量を設定した。この結果、454,000TEUを取扱う-12~14m岸壁が不足することから、長期コンテナ需要に対する新規バース規格を検討した。

駿河湾港の果たすべき役割である、首都圏や駿河湾港内のバックアップ機能を強化する観点を含め、清水港、御前崎港で合計3バース確保する計画とする。

一方、欧米航路において18,000TEU積載のコンテナ船建造計画が発表される等、世界のコンテナ船の大型化が進展していることから、清水港においては、水深16m化も視野に入れたターミナル機能の拡充に取り組む。

駿河湾港の新規コンテナバース規格

新規バース 需要数	水深			合計	総バース 延長
	12m	14m	15m		
駿河湾港	1	1	1	3	930m
清水港	1		1	2	600m
御前崎港		1		1	330m
コンテナ取扱能力(千TEU)	130	150	230	510	-



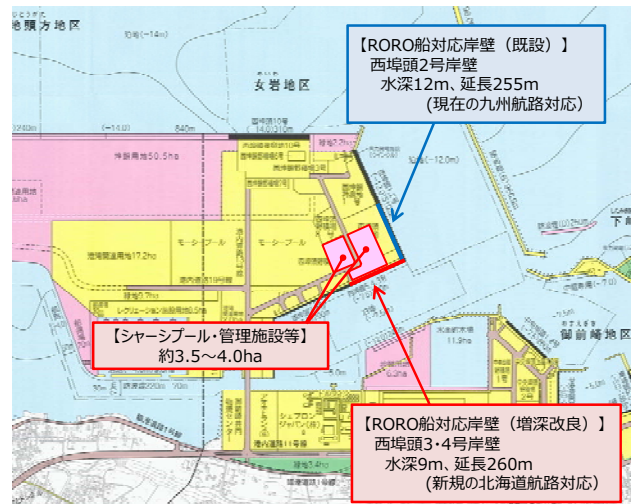
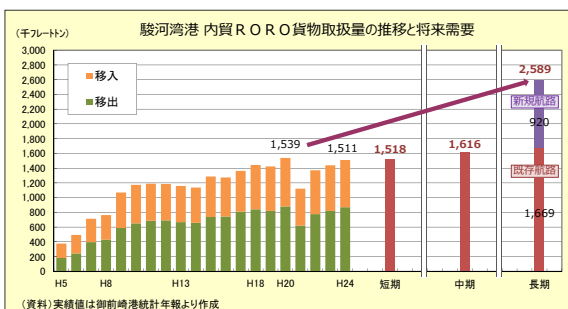
長期コンテナ需要に対する駿河湾港のコンテナバース配置計画

### ■ ROROターミナル整備計画

駿河湾港のRORO貨物の将来予測は、既存九州航路貨物の純増のほか、長期における新規航路を御前崎港に誘致し、駿河湾港の背後圏の北海道貨物をターゲットとして週1便の需要を見込むものとする。

既存航路と新規航路は、航行スケジュール上深夜の同時帯の利用が想定されるため、RORO船対応岸壁を2バース確保する計画とし、現状どおり西埠頭2号岸壁を利用するほか、現在国内に就航するRORO船最大クラスを想定し、隣接する西埠頭3・4号岸壁を水深9mに増深改良し確保する。

なお、シャーシプール等のヤードは、西埠頭2~4号岸壁背後の埠頭用地(約8ha)で対応可能である。



御前崎港ROROターミナル整備計画

## ■ バルクターミナル整備計画

駿河湾港の将来の公共バルク貨物量に対する対応岸壁規模を検討するため、背後の荷役機械やサイロ等との一体的な取扱いが不可欠な岸壁を対象から除外し、必要岸壁延長の充足検証をした。

この結果、既存施設の利用転換を図る御前崎港において、長期における岸壁延長が不足することから新たな岸壁整備が必要となった。その他、輸送船舶の大型化や将来的なバルク需要に対応した新規ターミナルの整備等、各港における計画に取り組む。



※計画実現のためには、船舶航行安全対策調査検討を要する



中央1～2号岸壁でバルブを取り扱った場合のバース利用率

品目	出入	H23実績		短期		中期		長期	
		貨物量 (千トン)	利用日数	貨物量 (千トン)	利用日数	貨物量 (千トン)	利用日数	貨物量 (千トン)	利用日数
穀物	輸入	379	50	349	46	349	46	349	46
	移入	114	78	105	72	105	72	105	72
木材チップ	輸入	596	84	-	-	-	-	-	-
石灰	輸入	120	14	500	58	500	58	500	58
セメント	移入	322	80	323	80	323	80	323	80
紙・パルプ	輸入	4	1	224	56	324	81	324	81
	移入	15	17	238	270	238	270	238	270
その他		184	145	184	145	134	145	184	145
合計		1,734	489	1,923	727	2,023	752	2,023	752
バース利用率			64%		100%		103%		103%

※計画実現のためには、船舶航行安全対策調査検討を要する

御前崎港におけるバルクターミナル新規整備計画

田子の浦港富士埠頭のパルプ船等対応岸壁整備計画

## ◇ 物流・産業機能の分担と連携のあり方

区分	駿河湾港			地方港・漁港	
	御前崎港	清水港	田子の浦港	大井川港	焼津漁港
コンテナターミナル	補完港 (近海、東南アジア航路)	拠点港 (全航路)			
バルクターミナル	穀物	パナマックス船対応 (満載入港) ポスト・パナマックス対応 (名古屋⇒減載入港)	3～5万DWT船対応 (航行安全検討の取組)		
	エネルギー	石油類	中部供給基地	東部供給基地	西部供給基地
		LNG	全県供給基地		
		石炭		拠点港	
	紙・パルプ		需要地分担 中東部	東部	
水産品		水産品輸入基地 遠洋漁業基地		遠洋漁業基地 沿岸・沖合漁業基地	
循環資源貨物	(西部基地) 特殊循環資源貨物 (広域積出基地)	一般循環資源貨物 共同輸送 (中部基地)	(東部基地)		
完成自動車	拠点港				
ROROターミナル	拠点港				

# 防災・危機管理機能の整備プロジェクト

## ■ 避難施設整備計画

静岡県第4次地震被害想定による津波到達時間内に安全に避難することが困難なエリアを抽出し、この避難困難エリアを解消するため、新たに避難施設を整備する。

特に多くの来訪者でにぎわう交流拠点エリアにおいては、円滑で安全な避難ができるよう津波避難対策を重点的に実施する。



清水港の津波避難施設整備計画

## ■ 防波堤改良計画

駿河湾港における緊急物資の輸送や生産・流通活動の維持・継続に資するなど、津波被害の低減や被災後の復旧・復興の促進を図るため、清水港、御前崎港の防波堤整備・粘り強い構造への改良を着実に進めていく。

また県内の水産流通拠点である焼津漁港についても防波堤の粘り強い改良を計画する。



【清水港】  
・粘り強い構造に改良中（国直轄事業）

【御前崎港】  
・粘り強い構造に改良中（国直轄事業）



【焼津漁港】  
・粘り強い構造に改良予定

	所有	延長	備考
清水港	国	1,300m	改良中
新御津防波堤	国	560m	改良中
御前崎港	国	1,200m	改良中
防波堤(西)	国	870m	改良中
防波堤(A)	県	800m	
焼津漁港	県	298m	改良予定
外港北防波堤	県	1,968m	改良予定
焼津外港南防波堤	県	551m	改良予定
小川外港南防波堤	県	551m	改良予定

※防波堤延長(計画箇所を含む改良対象の総延長)但し、御前崎港防波堤(西)は既設延長を表示

駿河湾港及び焼津漁港の粘り強い構造への防波堤改良計画

## ■ 緊急物資等輸送用耐震強化岸壁の整備計画

静岡県第4次地震被害想定による駿河湾港の緊急物資輸送需要量に対する既存耐震強化岸壁の取扱容量の過不足状況は、清水港と田子の浦港では充足するが、御前崎港では、取扱容量が15,923トン/日不足する結果となっている。

このため御前崎港では、新たに計画する産業活動維持用の耐震強化岸壁を被災直後の緊急物資輸送に活用する。また、田子の浦港では、老朽化が進む施設の代替施設として、富士5・6号岸壁の増深改良と併せ、耐震改良を行う。なお、これにより既定計画の富士4号岸壁の耐震改良計画を廃止する。



※計画実現のためには、船舶航行安全対策調査検討を要する

田子の浦港における耐震強化岸壁の配置計画



※計画実現のためには、船舶航行安全対策調査検討を要する

御前崎港における耐震強化岸壁の配置計画



## ■ 災害廃棄物処理計画

駿河湾港における被災後の災害発生がれきの処分用地は、清水港及び御前崎港の海域を活用候補として整備を進めるものとする。

御前崎港の御前崎地区水面貯木場は、かつての輸入原木の取扱いもなくなり未利用の状態が続いていることから、将来的には他機能への利用転換を図る必要がある。既に周囲護岸が整備されており、迅速な処理が可能となる利点を活かし、県内の災害発生がれきを受入れるエリアとして計画する。

また、野積場等の広い用地を有する港湾は、がれき集積後の仮置き、分別・処理、再利用あるいは埋立の一連の作業が集中的・効率的に実施できるメリットがあると同時に、県内他地域（伊豆半島等）からの海上輸送による受入も可能となる。

このような、港湾空間のメリットを活かす効果的な処理を可能とする仕組みづくりに取り組む。



清水港の災害廃棄物処理用地の計画位置図



御前崎港の災害廃棄物処理用地の計画位置図

## ◇ 防災・危機管理機能の分担と連携のあり方

区分	駿河湾港			地方港湾・漁港	
	御前崎港	清水港	田子の浦港	焼津漁港	地方港湾 その他漁港
避難対策	避難誘導計画の早期策定、津波避難施設の設置・避難ビルの確保、避難民海上輸送ネットワーク構築				
防護対策	海岸堤防等防護施設の嵩上げ・補強等、未整備区間での新設				
	第一線防波堤等の粘り強い構造への改良				
緊急物資の海陸輸送における結節点	県内の緊急物資海上輸送ネットワーク				
・耐震強化岸壁 ・緊急時利用入ルース ・緊急物資輸送道路	防災拠点港湾(西部) 防災港湾の中継基地 静岡空港との連携	防災拠点港湾(中部) 防災港湾の中継基地	防災拠点港湾(東部)	防災港湾	防災拠点港湾 (沼津、熱海、下田) 防災港湾
保安対策	SOLAS対応（外貿公共埠頭）				
エネルギー 関連施設対策		LNG基地(都市ガス) 石油類、重油、LPG	石油類、重油		(大井川港) 石油類、重油、LPG
漂流物対策	流出防止柵等のハード整備				
物流機能継続	産業活動維持用 耐震強化岸壁	コンテナ・バルク・RORO対応	コンテナ・バルク対応	バルク対応	
	緊急物資用耐震強化岸壁の活用	水深12m以上を各港に配置 利用可能な岸壁で駿河湾港の全体需要に対応			
駿河湾港内でのバックアップ	コンテナ埠頭増設 (耐震強化)	※御前崎港でコンテナ代替 [県外港への流出抑止]			
広域連携	首都圏支援	新興津コンテナ埠頭 (-15m岸壁連続3B化)			
	がれき対策	県内の広域的受け入れ (女岩・水面貯木場) (興津埠頭間・貝島)			

## 交流・生活・環境機能の整備プロジェクト

### ■ 旅客船埠頭整備計画

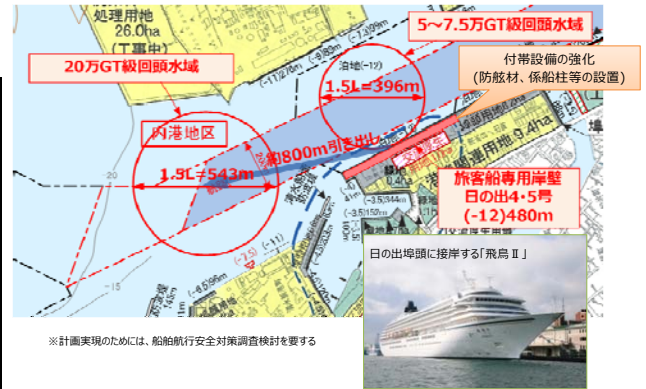
駿河湾港における旅客船埠頭計画は、旅客船の船長や泊地の余裕水深、回頭水域の設定の考え方を踏まえ、総トン階級別の最大船型をもとに設定し、各港の対応施設を検討した。

清水港日の出4・5号岸壁を、駿河湾港における大型旅客船埠頭と位置づけ、入出港操船の安全性を検証しつつ、世界に就航するすべてのクルーズ船（世界最大クルーズ船「オアシス・オブ・ザ・シーズ」約23万GT、必要岸壁水深11m、マスト高65m）の誘致を目指すものとする。

田子の浦港及び御前崎港は、船社や地元の要請に応じて、貨物利用等との調整を前提に、安全性が確保できる船舶について受け入れていくものとする。また、御前崎港については、御前崎地区における交流拠点の展開の中で、中央埠頭1・2号岸壁の旅客船専用化を図り、2～3万GT級までのクルーズ船を受入れていくものとする。

駿河湾港におけるクルーズ船対応埠頭計画

旅客船の船型	清水港	田子の浦港	御前崎港
7.5～15,20万GT級	日の出4・5号岸壁【既設】 水深12m、480m ※入出港操船の安全性を要検証		
5～7.5万GT級	日の出4・5号岸壁【既設】 水深12m、480m	富士1号岸壁【既設】 水深10m、240m 富士5・6号岸壁【計画】 水深12m、250m ※貨物利用、SOLASとの調整を前提	既設計画公共岸壁【計画】 水深12m、240m 西埠頭1・2号岸壁【既設】 水深12m、510m(耐震改良) ※貨物利用、SOLASとの調整を前提
2～3万GT級			中央埠頭1・2号岸壁【既設】 水深7.5m、260m



清水港におけるクルーズ船対応埠頭と回頭水域

### ■ にぎわい拠点整備計画①（清水港：日の出地区、江尻地区）

日の出地区は、物流機能を段階的に袖師地区へ移転し、クルーズターミナルを核とした交流拠点化を推進し、日本の玄関として相応しい魅力あるウォーターフロントづくりを目指す。

日の出埠頭は、外内港クルーズ船及びフェリーの専用埠頭としてターミナル機能を拡充し、上屋は、物販・飲食等のにぎわい施設へ転用等検討する。

江尻地区は、清水駅からの歩行者デッキを延伸し、水際線をプロムナード化するなど、ウォーターフロントへのエントランス空間として整備する。また、清水港線跡遊歩道を活用し、日の出地区との回遊性、一体性を強化するとともに、まちづくりを促進する土地利用への変更を検討する。

両地区の交流拠点としての拡充については、静岡市の「清水都心ウォーターフロント活性化プラン」と連携を図り取り組む。



ウォーターフロントのプロムナード化のイメージ

清水港日の出地区・江尻地区のにぎわい拠点整備計画

## ■ にぎわい拠点整備計画②（田子の浦港、御前崎港）

田子の浦港は、富士南岸壁背後の埠頭用地を交流厚生用地に転換し、田子の浦漁港区における「しらす祭り」等、水産関連・地域交流イベント用地として活用する。また、ふじのくに田子の浦みなと公園の展望広場を利用し、航路を航行する大型貨物船を観光資源化する。

御前崎港は、御前崎地区を交流空間へ転換し、中央埠頭は、大型旅客船や駿河湾横断フェリー受入施設として利用する。また、御前崎魚市場の背後は、水産業の6次産業化を進めるエリアとして利用し、体験・学習型の水産加工・販売施設等の導入により、新たな集客増と水産業の高度化に貢献する。



田子の浦港富士地区のにぎわい拠点整備計画



御前崎港御前崎地区・下岬地区のにぎわい拠点整備計画

## ◇ 交流・生活・環境機能の分担と連携のあり方

区分	駿河湾港			地方港・漁港	
	御前崎港	清水港	田子の浦港	沼津港 由比漁港 焼津漁港	西伊豆港湾
観光資源	なぶら館・なぶら市場 みなとかつお祭り  御前崎地区を交流空間へ (水産業を核とした交流)	エパルストリームプラザ 河岸の市、マグロ祭り  日の出埠頭を交流空間へ	大型貨物船の入出港 富士山の眺望 しらす祭り  漁港区を交流空間へ (水産業を核とした交流)	沼津：水産祭り 由比：桜えびまつり 焼津：水産物直売店 市場見学	
観光ネットワーク	駿河湾海上旅客船ネットワーク				
	新規フェリー・旅客船 (空港⇒西伊豆)	フェリー（土肥） ペイクルーズ（港内） 水上バス（港内）	新規フェリー (清水、土肥)	旅客船 (沼津～土肥等)	フェリー（清水） ペイクルーズ
クルーズ船	駿河湾海上旅客船ネットワークへ接続（西伊豆観光振興）				
	貨物埠頭利用	クルーズ船専用埠頭	貨物埠頭利用		
海辺のレクリエーション	[海洋スポーツ拠点] 人工海浜（県民） マリーナ（県民・ボート）	[海洋レジャー拠点] マリーナ（県民・ヨット）			
憩い	マリンパーク御前崎 (県民)	清水マリンパーク (県民・観光客)	ふじのくに田子の浦みなと 公園、港口左岸(県民)		
自然再生		折戸湾(海浜・干潟等) 新興津(興津海岸復元)			
環境保全	県内の広域的受け入れ			底質・水質改善 富士海岸保全	
	建設発生土受入(女岩)	建設発生土受入 (貝島・興津埠頭間)			
再生可能エネルギー	洋上風力・波力発電等	太陽光発電			
みなと教育・学習	港の歴史、貨物船・荷役見学、産業見学				